

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 トップ・スリル	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.590	△RG 0.023	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：TOP THRILL

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

番

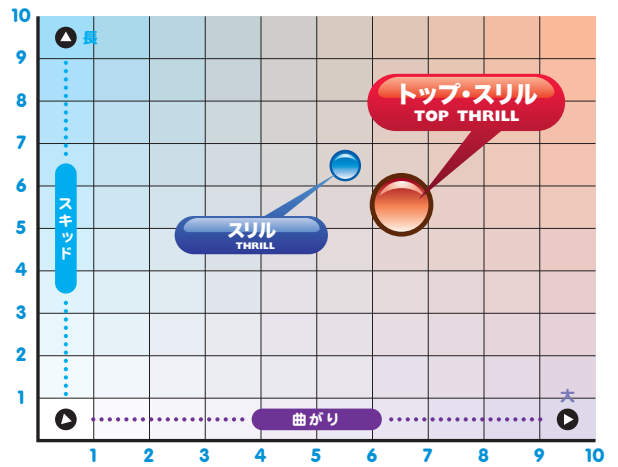
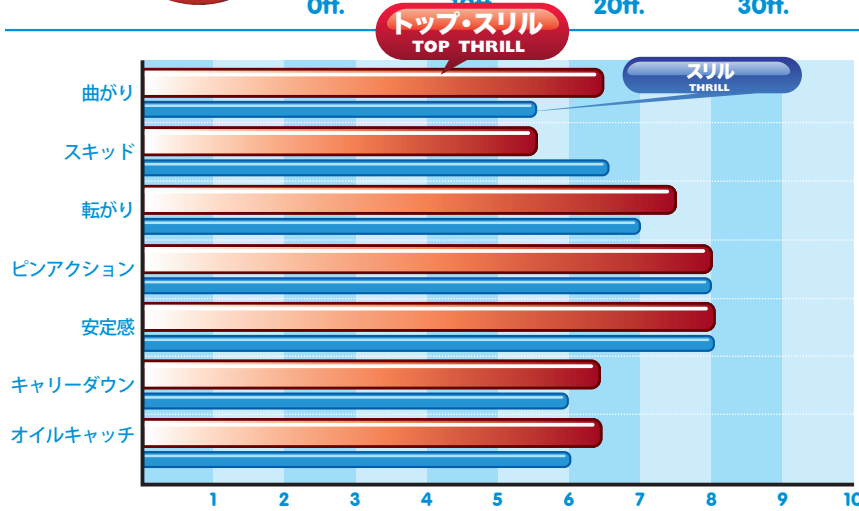
テストボール：THRILL

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離
4-1/2 インチ

番



ボールの評価

MOTIVで最もドライ用に開発が進められているTHRILLシリーズ。

この領域にはTANKシリーズも足並みをそろえています。ウレタン素材ながら表面加工の曇った仕上げも伴い、どうしてもオイルが薄くなるほどTHRILLを使う傾向は今も昔も変わりません。

初代THRILLはAgility XPカバーストックという、もともと走りどライゾーンの反応性の高いカバーストックをベースにXP添加剤を採用していましたが、今回のTOP THRILLはコア形状をFlux CoreからHalogen V2コアに変更、カバーストックをAgility XPからTurmoil XP Pearlに置き換えて新たな性能を導き出しています。Turmoil XP PearlはAgility XPカバーストックに比べ、より手前のオイルがある時に対応できるようになっていて、初代THRILLと比べスキッドは感じますが、ドライゾーンの反応は強く、走りに特化した性能というよりは少ないオイル用という位置づけに感じます。投球してみると明らかにカバーストックでキャッチの調整がTHRILLより上方修正されており、走りに特化したTHRILLから少ないオイル用にイメージを変えられています。

フランチャイズのコンディションでやや遅くなってきたというイメージでTOP THRILLを使えるような感じも見受けられ、想像よりもオイルを求められる場面も感じました。このようなオイルの感じ方ならば、走りに特化したTHRILLのイメージとしてではなく、現在発売されているボールでも曲がり過ぎるといふ方や、ややスピードに課題があるボウラーにはかなりのニーズがあるでしょう。コアの数値がややノーマルに近い分、強めにも弱めにもレイアウトが選べ、様々なボウラーにおススメできる点でもあります。

特記事項

ドライに特化したTHRILLからパフォーマンスが上方修正され、ミディアムライトが中心で軽めのスキッドと扱いやすいキャッチを感じます。配色が綺麗ななので多くの方に受け入れられるボールでしょう。